

春の山草、その名のいわれ

長 井 真 隆

秋の七草は、ながめて楽しむ野草であるのに対して、春の七草は、早春の味を楽しむ植物です。春の山草には、春の七草と同じように味を楽しむものが多く、柔かくて、それぞれに特有の味と香りがあります。

みどりのしたたる山菜摘みの季節となりました。山草の名前のいわれを知っていると、親しみがわき、いっそう山菜摘みが楽しくなることでしょう。

植物の名前あれこれ

“名は体を表わす”といいますが、植物の名前も、多くはそれぞれの特徴を表わしています。また、生えている場所や季節などを表わしているものもあります。

初夏の花に、キンランという野草があります。この名前からどんな野草を想像しますか。おそらく金色の花が咲くランを想像されることでしょう。また、タテヤマアザミといえは、立山に生えているアザミの一種を想像されることでしょう。このように、植物の名前には、その名前を聞くだけで大体の姿や産地がつかめるものがあります。

ところで、タテヤマギクといえは何を想像しますか。きっと立山に生えているキクの一種を想像されるにちがいありません。しかし、立山をいくらさがしてもこの植物は見つかりません。富士山とその周辺にしか生えていないキク科の植物です。採集地を間違えて、フジをタテヤマとして名づけたのです。このように、産地を正確に表わしていない植物名もあります。

植物名のいわれを、いくつかに分けて、その例をあげてみましょう。

- 1 時や季節に由来するもの
ヒルガオ・ヒツジグサ・シュンラン
- 2 人の名前に由来するもの
チョウノスケソウ・ヒトリシズカ
- 3 動物に由来するもの
ブタクサ・マムシグサ・ガンソク

- 4 ものの形に由来するもの
スミレ・イカリソウ・ギボウシ
- 5 生えている場所に由来するもの
ヤマユリ・タテヤマリンドウ
- 6 形や数に由来するもの
チゴユリ・ネジバナ・ゼンマイ・イチリンソウ
- 7 色に由来するもの
クロマツ・アサツキ・アオキ・シラカンバ
- 8 味に由来するもの
スイバ・ニガキ・スノキ・アマチャ
- 9 匂いに由来するもの
キュウリグサ・ヘクソカズラ・クサギ
- 10 薬や食用に由来するもの
ゲンノショウコ・チドメグサ・アブラナ
- 11 その他
オジギソウ・ウルシ・ヘチマ

アサツキ(ユリ科)

低い山の道端や畑跡などに生えています。ときには、河原や海岸の砂利地にも生えていることがあります。地下には、ラッキョウのような鱗茎があり、ここから茎や葉が伸びます。茎や葉は細長くてまっすぐ立ち、長さは30センチメートル位になります。

アサツキの「キ」は、ネギのなかまを示し、「アサ」は、茎や葉の色がネギよりも浅いことを示し



ガンソク



サワギボウシの花



ぎぼうしゅ

ギボウシ（ユリ科）

ギボウシの名前は、ギボウシ類全体の呼び名として一般に使われています。このなかまで、富山県に多いのはオオバギボウシとサワギボウシです。葉やつぼみの形が、らんかんのぎぼうしゅ(擬宝珠)に似ているので、この名があるといわれています。

若い葉をゆでて、塩をまぶし、しばらくつけてから食べます。少しぬめりがあって、キビキビと歯切れの

よい音がします。富山県では、ギボウシのことをギビキといっていますが、これには、歯切れの音が関係しているように思われます。

山菜を食べて、食中毒をおこすことがあります。多くは、同じユリ科のバイケイソウをギボウシと間違えて食べたことによっておきています。葉の裏に細かい毛があるかないかで両者を見かけます。毛があればバイケイソウなので、食べては危険です。

で、この名がついたといわれています。

伸びたばかりの若い葉や鱗茎は、みそをつけて生で食べられます。また、ゆでてすみそあえにすることもできます。

ガンソク（ウラボシ科）

谷あいの明るい林の下に生える大型のシダで、ときには、河原の堤防や空き地に生えることもあります。

新芽がガンの足に似ているのでこの名がついたといわれています。また、生長するとソテツのように葉を大きくひろげるので、クサソテツともいわれています。富山県では、これをコゴミとかコゴミナと呼んでいますが、これはゼンマイのように巻いている新芽を、こごんでいる格好になぞらえてつけたといわれています。コゴミナの「ナ」は、菜を表わし食用になることを意味しています。

ガンソクは、ワラビやゼンマイのようにあくをぬく必要がないので、山菜の即席料理としてよくこばれています。



キバナイカリソウの花

キバナイカリソウ（メギ科）

山の明るい林のすそに生えています。花は黄色で、その形が船のいかりに似ているのでこの名がついたといわれています。

キバナイカリソウは、富山県などの日本海側と朝鮮半島の北部とに生えています。これは、かつて日本列島が大陸と陸続きであったことを物語るものだといわれています。

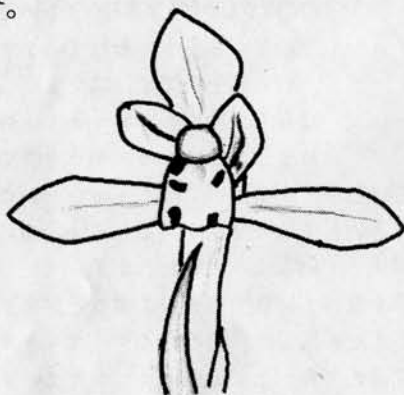
富山県には、キバナイカリソウのほかにも冬でも葉を落とさないトクワイカリソウが生えています。また、新潟県の姫川には赤紫色の花をつける普通のイカリソウのほかにもキバナイカリソウとイカリソウの混ざった性質を示すものも生えています。イカリソウの葉は、三つに分かれた枝の先に、それぞれ小さな葉が3枚つき、合計9枚の小さな葉からできています。それでサンシクヨウソウ（三枝九葉草）ともいわれています。

シュンラン（ラン科）

低い山に生えています。春早く咲くので春らん

の名前があります。また、ホクロともいいますが、これは、花びらにある斑点をほくろにみたてたものです。

花を塩湯にとおしてつけ込み、らん茶にすることがあります。最近のらんブームで、根こそぎに持ち帰る人がふえてきました。シュンランが山からしだいに姿を消していくのは、本当に残念なことです。



シュンラン

スマレ（スマレ科）

芭蕉は、「山路来て何やらゆかしすみれ草」とうたっていますが、スマレは、日当たりのよい山道のふちや垣根などに咲いています。

東富山駅構内の空き地に、すばらしいスマレの大群落があります。駅員の方々の手入れが行き届いているので、毎年、美しい花を咲かせ、年々群落が大きくなっています。

スマレの名前は、花の形が大工さんが使う墨入れに似ていることからつきました。

ゼンマイ（ゼンマイ科）

山の湿った斜面に生えています。ワラビは、1本1本独立して生えますが、ゼンマイは数本かたまって生えます。

ゼンマイの「花」に当たる胞子のつく葉を、男ゼンマイと呼んでいます。この葉は、若いとき巻いていて、その格好が昔の銭に似ていることから銭巻、つまりゼンマイと名づけられたといわれています。時計のゼンマイの名前は、植物のゼンマイの形からつけられたようです。

男ゼンマイは、食用にならないといわれていま

すが、実際は食べることができます。山の人は、子どもをふやすはたらきがある男ゼンマイを大切にしています。それで、「これは男ゼンマイだから食べられないよ」といって残すようにしたのでしよう。山菜としてのゼンマイを保護する意味でたいへんすばらしい習慣だと思います。



トリアシショウマ

トリアシショウマ（ユキノシタ科）

山の斜面の明るい林に生えています。伸びたばかりの茎の格好は、ワラビの新芽に似ています。よく見ると、茎の先が三つに分かれていて、ちょうど鳥の足先のようにです。また、茎が伸びきると枝が細くてかたくなり、その姿も鳥の足に似ています。トリアシショウマの「トリアシ」は、こうしたことからついたと思われます。「ショウマ」は、キンボウゲ科のサラシナショウマに、草の形が似ていることからつけられました。

富山県では、トラセと呼んでいるところが多いようです。若い茎をゆでて、塩をまぶして、しばらくつけてから食べます。

ヒトリシズカ（センリョウ科）

山の雑木林のかたすみで、ひっそり咲いているようですが、いかにも義経と悲しい別れをした美しい静御前をおもわせるので、この名前がついたといわれています。



ヒトリシズカ

20センチメートル位に伸びた1本の茎の上に、2対の葉が輪になるようについています。そのまん中から長さ3センチメートルほどの花の穂がでて、そのまわりにブラシのような白い花が多数咲きま



フタリシズカ

す。花には、花びらがなく糸のような白いおしべが目立ち、それがブラシのように見えます。

フタリシズカ（センリョウ科）

ヒトリシズカと同じように山の林の中に生えています。ヒトリシズカの花の穂が1本であるのに対して、フタリシズカの花の穂は2〜3本あります。ここから二人静と名づけられました。静御前が、ふたりのゆうれいになって寂しくも美しく咲いているのだといわれています。

フタリシズカは、ヒトリシズカより1ヶ月ほどおくれて花が咲き、全体にごつい感じがします。葉は、2〜3対あって、それぞれ段違いに茎につ

いていて、ヒトリシズカのように輪になって見えません。

ワラビ（ウラボシ科）

ゼンマイは、湿ったところに生えるのに対してワラビは日当たりのよい乾燥したところに生えています。

ワラビの名前のいわれについて、いろいろな説があります。ワラビの「ワラ」は茎を、「ビ」はアケビの「ビ」と同じように実を表わしていて、ワラビは食べられる茎という意味だという説、また、ワラビは、春になると燃えるように芽がでるので、そのようすをわらが燃えることにたとえて名づけたという説、また、新芽が幼児のようにういういしくわらべしいことから名づけられたという説などいろいろあります。

以上名前のいわれについて、代表的なものをいくつか紹介しました。このほかに、イラクサ（エラ）・オオアキギリ（イイナ）・カタクリ・ササユリ・イワウチワ・エビネなどのいろいろな山草があります。それぞれについても、名前のいわれを考えたり、調べたりしてみましょう。

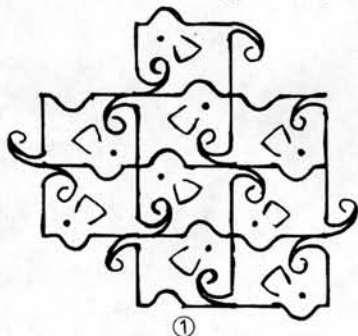
（ながい しんりゅう：事務局次長）

— や っ て み よ う —

くりかえし絵は楽しいものです。

①図は、②図のような長方形をもとにして描いたものです。このような方法もくりかえし絵の描き方の一つです。

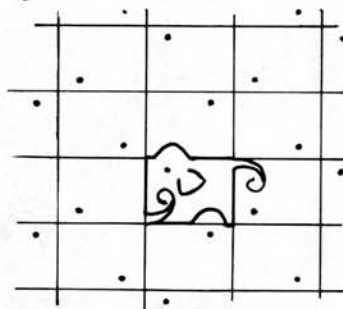
②図の黒点は、目の位置をかきこんだものですが



①

よくみると長方形の頂点に対して点対称になっています。

目の位置をきめると動物の向きがわかります。一つ自分の好きな動物のくりかえし絵をつくってみて下さい。



②